

## 平成 21 年度岡山大学大学院社会文化科学研究科博士前期課程【2月募集】入学試験問題

講 座	言語情報論
専門科目 2	日本語試験

問題 1 次の【A】～【C】は、あるテレビドラマを小説化したものの一節である。これを読んであとの設問に答えなさい。

問 1 次の文①' は、①と同じく、「しなくてはならない」という形の述語をもつが、この2つの「しなくてはならない」は用法が異なる。どのように異なるかを説明しなさい。

①' 明日は用事がある、出かけなくてはならない。

問 2 次の文②' は、②と同じく、「するな」という形の述語をもつが、この2つの「するな」は用法が異なる。どのように異なるかを説明しなさい。

②' 明日は出かけるな。

問 3 次の文③' は、③と同じく、「してもいい」という形の述語をもつが、この2つの「してもいい」は用法が異なる。どのように異なるかを説明しなさい。

③' 明日は出かけるから、雨が降ってもいい。

注 1 次の【A】～【C】とは、三谷幸喜『古畑任三郎 1』（扶桑社文庫）の 25 頁・124 頁・207 頁からの抜粋である。

問題 2 次の文章は、あさのあつこ『バッテリー』の「あとがきにかえて」という文章の一部である。著者は、この小説を書いた理由について書いている。これを読んであとの設問に答えなさい。

問 1 下線部の読みを書きなさい。

1 忌み嫌われる    2 尊び    3 乏しく    4 抱き    5 枠

問 2 二重下線部の表現の意味を、あなたよりも日本語ができない留学生に日本語で教えるとしたらどのように説明するか。書きなさい。

1 しがみついていた    2 かけがえのない

問 3 波線部「なおさら」という言葉を使って例文を作りなさい。

問4 破線部「だから、書きたかった」について、著者はなぜ、この小説を「書きたかった」と言っているのか。あなたの言葉で分かりやすく説明しなさい。

注2 次の文章とは、あさのあつこ「あとがきにかえて」『バッテリー』（角川文庫）の253～254頁である。

問題3 以下の文章を読んで、あとの設問に答えなさい。

問1 筆者は、「日本語は根本的に二重構造になっている」と述べているが、それは具体的にどのような意味であるか説明しなさい。

問2 筆者は、この「二重構造」性の長所と短所について述べている。それぞれについて具体的に述べなさい。

注3 次の文章とは、加賀野井秀一『日本語は進化する』（日本放送出版協会）の149～152頁である。

以上